

# 三河本苑「5つの重点活動」の実施内容

本苑長：加藤三樹

本年、三河本苑は「5つの重点活動」を掲げ、ご神業に取り組んでいます。その活動の具体的な実施内容は下記の通りです。皆様と心ひとつに活動を推進したく、ご協力をよろしくお願い致します。

## 1) み教えのインターネット宣教 (リーダー：永田修三)

- ①月次祭の祭典前30分、大本公式チャンネルのYouTube配信動画、ビデオニュース等を視聴する(4月月次祭より実施中)
- ②各部会行事の動画を撮り、三河本苑公式LINEで配信する(9月24日宣伝使・信徒研修会より実施予定)
- ③特任宣伝使/宣伝使の講話を、LIVE配信または三河本苑公式LINEで配信する(秋季大祭後、特任宣伝使の講話を配信予定)

## 2) みずほAIZEN発酵堆肥を使った野菜作りと正食/食育

(リーダー：野田庸子)

- ①「初心者のための土作り研修会」の実施(3月19日済)
- ②上記①で収穫した野菜を本苑・分所支部・各家庭の神様・祖霊様へお供えする。また育てている過程の写真を撮り、本苑春季大祭にお供えする。
- ③食品残りゼロ運動を実施する…家庭だけでなく外食時もゼロを目指す
- ④今後の直会作りに、なるべく無農薬の野菜を使うことを心掛ける

## 3) エスペラントによる献詠歌作り (リーダー：牧 武)

- ①9月17日大本エスペラント歌祭に献詠歌を投稿する(目標30名)  
日本語からエスペラントへの翻訳費用の一部を本苑負担する
- ②挨拶/「三首のお歌」からエスペラントに親しむ  
月次祭後、萩原講師より挨拶/「三首のお歌」のエス語の簡単な説明をする
- ③春季大祭に、前田茂樹EPA常任理事よりエスペラントに関する講話をいただく

## 4) 青年部員参加の祭典 (リーダー：河合恭久)

- ①3月月次祭に青年部員1名が祭員デビューしました
- ②4月月次祭に青年部員2名が伶人デビューしました
- ③正座の苦手な若者も祭員・伶人にお仕えできるように、椅子を使つての庭上祭にて月次祭を執行する(6月より)

## 5) 玉串松の植樹 (リーダー：調子真一)

- ①3月10日現地調査を行い、植樹場所を決定した  
場所：新城市竹ノ輪上洞、生田文弘様所有の畑
- ②4月1日に5本を植樹した
- ③本年は上記②の生育状況を見て、来年3月か4月に本数を増やして植樹する

# 三河本苑だより

6月号

2023・6 No.493

(発行者)

大本三河本苑

〒443-0031

蒲郡市竹島町28-5

TEL 0533-69-7518

FAX 0533-69-1455

**予告**

今年は「少年夏季学級」やるよ

【日時】7月23日(日) ◆青年部による  
【場所】大本三河本苑 紙芝居・余興  
◆午前/プランタ栽培 ◆午後/水族館

青年部

直心会

新生姜のつくだ煮づくり

【日時】7月15日(土) 10時～

【申込み】直心会支部長まで

【切】6月18日(日)の本苑月次祭迄です。

誠心会万祥殿献勞

●30日(日)

少年夏季学級

●23日(日)

本苑七月月次祭

●16日(日)

新生姜の佃煮作り  
(直心会)

●15日(土)

7月の行事

本苑六月月次祭

●18日(日)

6月の行事

三河本苑公式LINE



↑ コチラから  
本苑だより更新中

# 「マイ祝詞」「マイ箸」「マイボトル」「マイタオル」持参でお願いします

## コラム

### 時代に生きる

Sさん

私には、若き日に共に青年団奉仕活動をした友がいます。彼は先見の目があり、研修会でもいつも新しい事を提案しては、大らかな心で参加者を引き付ける魅力を持っていました。

友は30年前に町内の葬儀屋さんから、セレモニーを建てたいので土地を貸してほしいと言われ、快く承諾したのである。町内には二つの葬祭場ができたの

である。6年前に事情があった、葬儀屋から建物を含めすべての権利を友に引き受けてほしいと話が合った。友は養鶏場を営んでおり、まったくの畑違いの話であったが、全てを受け入れ、「葬儀業界資格」を取り、葬儀屋もはじめたのである。立ち上げてすぐにコロナ感染が広がる中、手頃な価格でもありセレモニーの利用者は増えています。



本業の養鶏場は早くから、餌の配合に工夫し、また、いち早く卵の自動販売機を設置し、名古屋から「さかな広場」に来る方が帰りに大量買いする人気である。しかし、現在の物価高に10年間の「物価の優等生」の卵も数日前、値上げに踏み切った。40年以上人型をしていただいてる友には、これからも神様の御守護があることを願いたい。

## 私の思い

刈谷分所 生源寺 純 雄

## 「礼 拝」

これからの時代は、人生百年の時代に入るようです。子供の頃は、人生六十年だから、毎日の日々、悔いのない生き方をする様にと、先生に言われたものです。しかし人生百年時代になると、これからの生き方を模索し、意義ある日々にする為には、どう生きるべきか考えさせられます。私は傘寿も過ぎおかげさまで、それなりに元気で過ごさせていただいています。

まだまだこれから、天命を全うする迄、神様の御用をさせていただきたいと思います。数年前迄は親しい友人達と一年に数回、全国各地を観光し、その土地の名所旧跡等観光し、又、土地土地の美味しい物を食し、それはそれで楽しく意義ある日々でした。

今ではご多分に漏れず、みんな高齢になり体調不良を伴い旅行も行けなくなりました。ならばこれからの人生どう生き、どんな楽しみを求め、どんな有意義な人生を送るべきなのか？考えさせられます。ところが数年前のある時期から、前途の楽しみとはまったく別の「楽しみ、よろこび、生きがい」

を感じる事が出来ました。

それは毎日の朝夕の礼拝です。一時間の朝夕の礼拝、そして礼拝後の御神書拝読（音読みします）これがとてつもなく楽しく（こう言う言い方は失礼でしょうか？）よろこびを感じ、生きがいを感じる様になりました。

それでは今まで朝夕の礼拝及び月次祭等は慣例的に礼拝をしていたのでしょうか？礼拝時は御神前に正座し、臍下丹田に心を静め、真剣にお祈りをさせていただいています。特に祝詞を奏上する時は、真心を込めて、一言一句、清く正しく心を込めて真剣に、ゆっくり奏上しています。

こう云う日々が、以前の旅の楽しみとは異質の生きがいを感じる今日この頃です。その祈りが神様に通じるものと信じます。御神書に示されている通り、「祝詞はすべて神明の心をやわらげ、天地人の調和を来す、けっこうな神言である。」と示されています。故に毎日の礼拝の大切さ、祝詞の大切さをこれからの人生の道しるべとし生きていければ幸いかと思います。

## 誠心会万祥殿献勞

誠心会長 三浦 浩

4月22日に久々の万祥殿献勞奉仕の清掃をさせていただきました。

昨年末は寒波の影響で中止となり、今回は昨年7月以来という事で15名の方に参加していただきました。

普段立ち入ることの出来ないご神域での清掃をさせていただき、参加者全員清々しく帰ることが出来たと思います。

## 六月添釜 水無月茶会

残りの半年も無事を祈りつつ、一服を差し上げたいと思います。

## 心の隙②

一日出磨先生之旧稿より  
特任宣伝使 芝田 豊海

又よしや己に悪霊に憑依されている人でもまだどこかに省るという働きさえあつたならば、直霊の魂の光と神様の御守護とによって、漸次にその悪霊を委縮させ、改悛させることが出来るのであります。ところが、内省力のない人、若しくは自己を放れて至公至平に内省せず、自分の都合のよい方にこまかしている人と来ては、幾度もいくども同じ愚を繰返して悟らず、終生何らの霊的進歩をなし得ず、中には悪方の願使（いし）に甘んじて地獄へ落ちる人もあるのです。特にかみさまのお道では野心が一番恐ろしいのでして、自分からどうなるう斯うなるうという目的信神をやめて、最善を尽くして後は一切お任せするという気持ちにさへなっていたら、一番楽であり結構なのであります。少しでも「俺が」という気があると、知らず知らず他（ひと）を見下げる気持ちになり易く、少しの自分の限界的位置や技能を鼻にかけたりなどして神慮に叶わぬことになるのであります。但し正神界の天使（かみ）様のお憑りになっている時には、肉体的理智を出さずに出来る限り思うがままに活躍したらよいのであって、此の場合余りクヨクヨと省み過ぎるといふ事が遅れてしまうのであります。

次に天使様よりの御内流と、悪霊よりの霊流とはどう異うかというに、大体に於て天使様よりの場合は、何となく気が勇み心が爽やかで、ものに屈託せず、環境見聞すべてが気持ちよく和やかに感ぜられ、仕事もドンドン出来てゆくののであります。